

2021 年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 震災がつなぐ全国ネットワーク
 代表者・役職名 氏名 事業担当・浦野 愛

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

地域における災害対応人材育成のための研修ツール開発・作成事業

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

阪神・淡路大震災の被災者支援を契機に、1997年11月設立。「生の声に耳を傾け、一人ひとりに寄り添う」という想いに共鳴する災害支援・防災に関わるNPO・ボランティア団体が集まり、全国域のゆるやかなネットワークを作っている。現在団体会員44、個人会員35。「すぐに行く・そばにいる・長く寄り添う」をモットーに、会員同士のつながりを大切にしながら、これまで50を越える災害の被災地支援に携わっている。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

・プロジェクトの目的

コロナ禍や、南海トラフ地震等を含めた広域災害における、支援者不足を改善すること。
 ボランティアの育成を目指した研修ツールの開発・作成を目指す。

・背景

近年の相次ぐ風水害や地震によって、避難生活が長期化し、災害関連死や心身の重篤な健康被害の発生が後を絶たない。またコロナ禍で被災地域自体や住民が、感染症の拡大を恐れ、県域を越えた外部支援の受け入れに消極的な姿勢が見られ、被災地支援の担い手不足が起こっている。このような状況下で、より一層、地元の行政、社会福祉協議会、自治会、ボランティアやNPO等による支え合いが求められるようになっている。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

当ネットワークの会員を中心に、被災した自治会や地元ボランティア、NPO等が現場で見て、すぐに活用できる生活支援系ニーズ「足湯ボランティア」と「サロン」のノウハウをまとめた下記のツールを作成。①動画(RSY制作)「知ってみよう! やってみよう! 足湯ボランティア」のmp4データ・DVDディスク100枚②この動画を補足し、現場で迅速に活用するためのパンフレット1000部。いずれも、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた内容で構成した。また、今回のツールと、これまで現場で培ってきた支援技術の周知・共有を目的に、当団体の会員団体・個人、ネットワーク団体等に向けた、「技術系」「生活支援系」研修会を開催する。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

足湯ボランティアの動画ディスクとパンフレットを作製したことで、災害発生後、支援を希望する団体、地域が即座に現場で活用できるツールを提供することが可能となった。また、研修会では、震つな技術系幹事による『水害後の修繕待ち家屋等でのDIY事例』(50名参加)、4つの学生団体を登壇者に迎えた『コロナ禍における足湯ボランティア実践例』(55名参加)がそれぞれの活動への想いや、活動状況、工夫などを紹介し、支援技術の向上やコロナ禍での活動のモチベーションの維持、団体同士のあらたなつながりづくりの機会となった。参加者からは「いずれも練習すれば自分にもできそうな敷居の低い支援メニュー」との評価を頂き、参加者のやる気と自信を後押しする効果が得られたと考えている。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

ツールの作成に時間がかかり、研修会開催の時期の遅れにつながったこと、オンラインでは限界があり、技術の共有や交流の深みが十分に得られなかったことが課題となった。しかし、いずれのツール、研修会も好評であったため、今後もツールの更新や、定期的な研修の機会を重ね、ネットワークの枠を超えて、学びを深め、技術を共有し、互いに励まし合える関係づくりの強化につなげていきたいと考えている。今回作成したツールは、既に今年発生した一部の水害の被災地で活用されているが、今後も積極的に広報し、ツールを使った講習会を開催できる講師・ファシリテーターの育成も検討していきたい。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

技術系オンライン講習会

納品時はこのようにビニール袋に包まれています。

原反 910×1820mm はこのくらいの大きさです。

床に養生シートを敷きました。

壁やドア、ドア枠にもシートを貼り付けていきます。

どんどん貼ります。

張り終わりました。

床と壁の角もびったり貼ります。

このような角にもしっかり貼ることが可能です。

これで養生の完成です！

足湯オンライン講座

つながろう！足湯ボランティア
～コロナ禍の被災地で活動を続ける想いを語り合い、お互いのノウハウを共有しよう～

震災がつなぐ全国ネットワーク

震災な幹事 生活支援チーム
 荻田栄和（個人会員／静岡）
 北村育美（個人会員／福島）
 青山織衣（大阪ボランティア協会）
 浦野愛（事業担当／RSY）

震災がつなぐ全国ネットワーク

この取り組みは、真如苑・2021年度助成金により開催しています。

足湯ボランティアのツール紹介

いつでもどこでも誰でもできる足湯
暖かい湯に足を浸すと、心と体の疲れを癒やしてくれます。

①動画 (MP4/DVD)
 ・足湯ボランティア体験談
 ・足湯の準備と設置例
 ・足湯の効果を伝えるための声かけ

②パンフレット
 ・準備したいものリスト
 ・感染症予防の基本
 ・サロン・足湯の設置例
 ・場づくりの効果と足湯の効能
 ・足湯の手順
 ・足湯Q&A
 ・チラシ、健康チェックリスト、サンプル

居場所
 一対一の関わり、対話は、疲れ切った身体、こぼれた心も解きほぐしてくれます。

リラックス
 ゆったりとした空間で、吐き出すストレスを取り戻す。

つながり
 そうしてつむぎだされた、気持ちを整理するだけでなく、それらを記録し、まとめることで、専門家などにつなぐことができます。

橋渡し
 地元での取り組みを広げて頂くために、ご希望の方に進呈致します。アンケートからお申込み下さい！